

議事要旨

第1回千葉県^{モビリティ}移動性向上プロジェクト委員会

開催日時： 平成17年11月21日（月）11:00～12:00

開催場所： ぱ・る・るプラザ千葉 6階「樺1」

委員会出席者：	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科 教授	赤羽 弘和（委員長）
	千葉県警察本部 交通部 交通企画課長	佐藤 譲二
	千葉県警察本部 交通部 交通規制課長	小林 安久
	社団法人 千葉県商工会議所連合会 事務局長	小石 まさよ
	社団法人 千葉県トラック協会 事務局長	吉川 秀明
	社団法人 千葉県バス協会 常務理事	加藤 廣
	千葉日報社 取締役業務局長	川名 親
	千葉県 県土整備部 道路計画課 副課長	高地 恒雄（代理出席）
	千葉市 建設局 道路部長	井上 直人
	首都国道事務所 事務所長	吉木 務
	東京湾岸道路調査事務所 事務所長	石川 直幸
	千葉国道事務所 事務所長	有田 幸司

（敬称略）

- | | |
|------|---|
| 委員 A | ・「委員会の進め方」について、移動性阻害箇所選定後の第4回委員会で検討予定の「阻害要因の改善に向けたフォローアップ」が重要。移動性阻害要因を選定することも大事だが、PDCAサイクル（Plan（計画） Do（実行） Check（評価） Action（改善））に則り、効果がどのくらい上がったかを県民にも開示し、フォローアップしながら評価指標を選んでいくことが望まれる。 |
| 委員 B | ・資料-1のp5の「渋滞と走りにくさ」において、住民にとってこの二つは、分けて説明した方が分かりやすいのではないか。 |
| 委員 C | ・ドライバーにとっての「走りにくさ」だけではなく、そこに住む人にとっての「生活のしやすさ」という視点もあるのではないか。 |
| 委員 A | ・「雨量が多く通行止めになって、観光地の客離れがおきた」というような気象に地元の生活が影響を受けるなどの問題もある。道路の信頼性という点も重要。 |
| 委員 A | ・インターネットなどを活用し、県民の意見を聞くとともに、タクシー、バス、トラックの運転手の方々から話を聞いて渋滞箇所の見当をつけてはどうか。日頃渋滞している箇所をユーザーの立場からあげてもらい、実感をフィードバックして頂きたい。 |
| 委員 A | ・トラック、バス、タクシーの運行管理システムからのデータも活用していけば、強力な手段となる。 |
| 委員 B | ・警察では、「旅行時間」をユーザーに公表している。今後、各機関との協同が必要。 |
| 委員 A | ・渋滞箇所では何が起きているのかを各機関で共通認識することは基本である。また、安全性向上と移動性向上との双方に関係する指標もある。 |
| | ・渋滞が減少することで、事故率が減る。また、渋滞が減少すると、旅行速度が向上し、「環境」負荷が減少する。安全、環境の問題も評価につなげていくべき。 |
| 委員 C | ・渋滞を迂回するため、カーナビを頼りに細い生活道路に車が入り込み、そこで生活する住民が迷惑するという現象が起きている。 |
| | ・信号機の系統制御や休日と平日との運用の見直しなど、あるいは細道路（地先道路）にカーブミラーを設置するなど細やかな道路行政をお願いしたい。 |
| 事務局 | ・本日頂いた貴重なご意見を参考にさせていただいて、次回以降の進め方へ反映させていただきます。 |